寫眞週報

情報局編輯　七月廿六日・第三二三號併合號



札立の時

國内すでに決戦場

民草の人柱を担ふこの神州を護持せん

サイパン島戰鬪經過

在留邦人、將兵と運命を共にす



南雲海軍中將



斯島陸軍中將



辻村海軍少將

陸海軍報道部長談

サイパン島における戰鬪經過は次ぎの如きものである

六月上旬、敵の有力機動部隊がマリアナ諸島東方に出現、サイパン島は十一日艦載機延百九十機の攻撃を受けたのを皮切りに、十二日延二百數十機の來襲、十四日同島西南海岸オレアイ飛行場附近に艦砲の猛撃を受けた。上陸地點附近に現はれた敵の兵力は、航空母艦十數隻、戰艦八隻、大型輸送船七十隻內外を基幹とする强力なものであつた。翌十五日未明、敵は猛烈なる砲爆撃を開始、七時頃その揚陸下に三百隻以上の舟艇を泛水、一齊に同島西南海岸オレアイ附近に向つて上陸を企圖したのである。わが部隊は直ちにこれを邀撃、再度に亘りこれを撃退、甚大なる損害を與へたが、正午過ぎ敵の一部はススペ岬附近に地歩を占むるに至り、爾後逐次これを擴大していつた。わが部隊はこれに對し熾烈なる敵の砲爆撃を冒して反撃を續行、夕刻までに肉薄攻撃により敵戰車のみでも十數臺を炎上せしめ、わが航空部隊また敵戰艦一隻、巡洋艦一隻を撃沈し、巡洋艦二隻を炎上せしめた。この秋に方り皇國護持のため、我々の進むべき途は唯一つである。心中一片の妄想なく、眼中一介の死生なく、幾多の戰友ならびに同胞の鮮血によつて得たる戰訓を活かし全力を擧げて、速かに敵を撃摧し、勝利を獲得するばかりである。かくして始めて大東亞戰爭に護國の神となれる幾多の勇士に報いることもできるのである

大東亞戰爭の目的は宣戰の大詔に炳乎として明らかである。大東亞戰爭は、帝國にとつては、興廢の岐れる戰ひであり、亞細亞解放の聖戰であるが、敵にとつては、大東亞を奴隷化し、世界を征服せんとする戰ひである。自存自衞と野望達成との爭ひ、解放と侵略との鬪爭なのである。しかして今や、決戰の機は來れり。今こそ、大東亞諸民族とともに、歐洲の盟邦と相携へて、敵米英の不逞なる反攻を徹底的に撃摧するの秋である

眞の戰爭はこれからである。一億決死の覺悟を新たにし、光輝ある三千年來傳統の闘魂を凝集して、究極の勝利を獲得し、以て、聖慮を安んじ奉らんことを、こゝに更めて、固く誓ふ次第である

大本營發表（昭和十九年七月十八日）

一、**サイパン島のわが部隊は七月七日早曉より全力を擧げて最後の攻撃を敢行、所在の敵を殲滅し、その一部はタポーチョ山附近玉碎し勇戰力闘敵に多大の損害を與へ十六日までに全員壯烈なる戰死を遂げたものと認む**

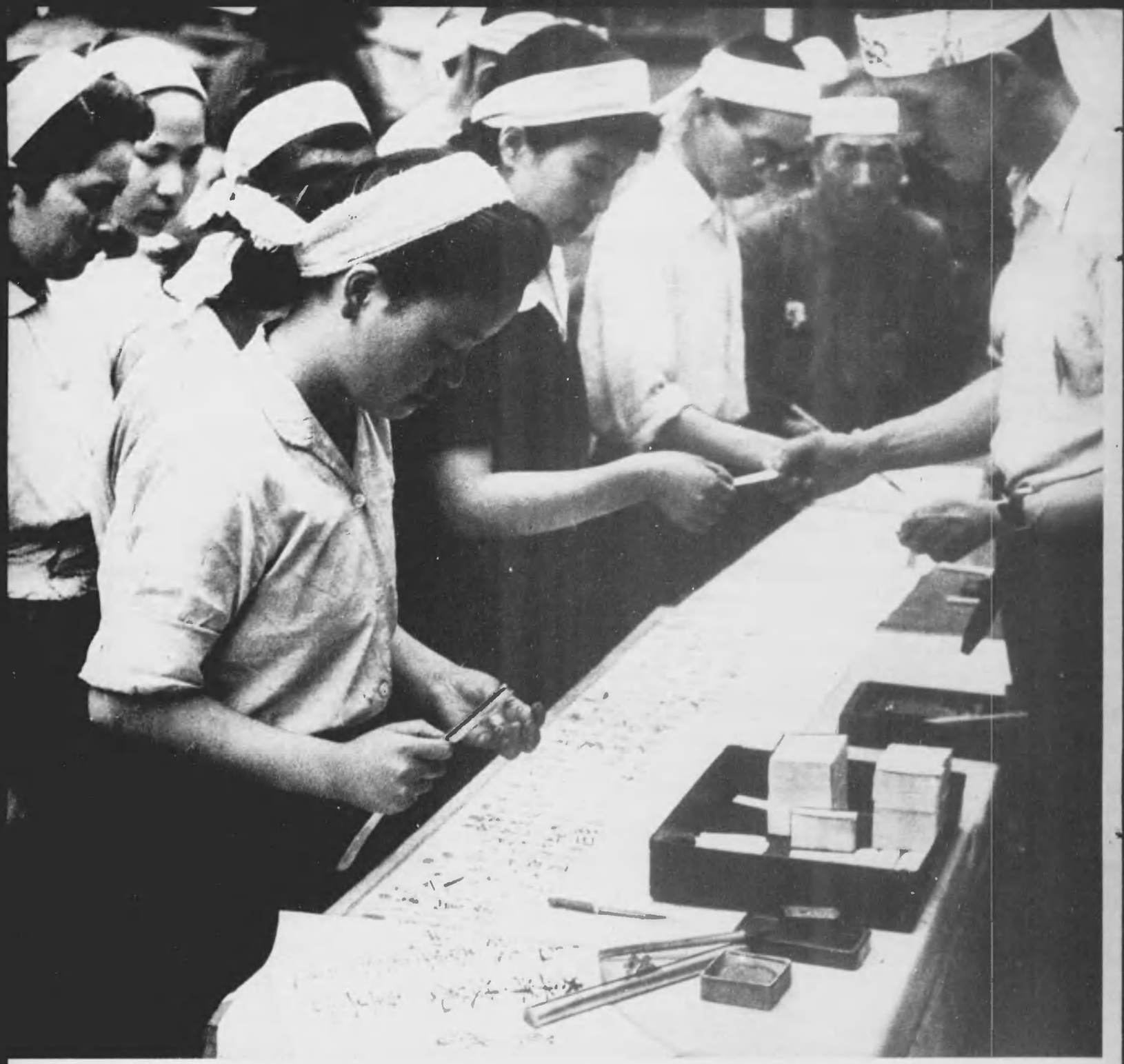
同島の陸軍部隊指揮官は陸軍中將齋藤義次、海軍部隊指揮官は海軍少將辻村武久にして、同方面の最高指揮官海軍中將南雲忠一また同島に於て戰死せり

二、**サイパン島の在留邦人は終始軍に協力し、凡そ戰ひ得る者は敢然戰鬪に參加し、擧ね將兵と運命を共にせるものの如し**

これに對し南太平洋方面の平穩隊きた北上し來り、十九、二十日マリアナ西方海面において、航空機動部隊が敵機を攻ふることとなつたが、その狀況については既に大本營において發表せられた通りである

かくて二十三、二十四日頃、やゝやや、サイパン島水源地も全く破壞せられた。もとく〳〵同島は水に惠まれざる井水極めて少い處であつたため、關係給水にも缺ける無論するに至つた

しかも一方的に制空、制海權を掌握してゐる敵の艦砲射撃と援撃とは、日を追つて〳〵熾烈となり、全島に亘つて之の猛砲が浴びせられるに至つたわが方は敵の上陸以來約一箇月、晝夜を問はず敵の砲爆撃にさらされ、特に最後の十日間における艦砲からの猛射撃および間斷なき銃爆撃により、晝夜はもとより、晝



頑張らう 一億決死の覚悟で

心耳を澄まして、サイパン島に散華した將兵及び同胞の雄叫びをきかうではありませんか

幼い聲を張りあげて『天皇陛下萬歳』を三唱すると、國民學校の兒童が、兵隊さんに抱かれて散つてゆきます。その最後の瞳に映つたものは、萬古不易のわが國柄を象徴する淨らかな富士の姿であつたでもありませうか。それとも萬衆と唉き匂ふ櫻の花でもありませうか

また、もうすでに冷い赤子に頬ずりしながら、若い母親が叫ぶ『天皇陛下萬歳』が、かすかながらはつきり聞えてきます

しかも、これらの英魂は、今なほサイパンの島にしがみついて、滅敵の絶叫を繰返してゐるでありませう

戰ひは、最後の最後まで頑張る者、踏みつけられようが、叩きつけられようが、『貴樣らには絶對に負けないぞ』と確信する者、卽ち相手が負けたといふまでは、決して戰ひをやめないぞといふ强烈な意志が、勝利を得るのです

サイパンの島を彩つた同胞の血の滴りには、死してもなほ國體を護持せんとする火の如き信念と誓ひが凝結してゐます。この信念と誓ひに双向ひ得るものが、何處にありませうか

かう考へると、たとへサイパンの島は米兵の軍靴に踩みにじられても、同胞はこの島に明らかに勝利の旗をうち樹てたのであります 燦として輝くこの旗の下、一億悉く死を決して、神州を護持する決意をさらに固めようではありませんか

☆

戰況を知るのに、もう地圖を見る必要がなくなりました。國内すなはち私どもの身の廻りが、既に戰場なのです。槌を振り、鍬を握る、その手が直接敵をたふすのです

☆

⇧
私たちの血を捧げます。敵を撃つ生産に全生命を打込みます。小指から滴る紅の血が日本全女性の決意を語つてゐる——血判して必勝生産を誓ふ東京宮城製作所の奉公突撃隊員

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



の死決億一にゝこは胞同てくか　たつ上ち起てつとを器武でま年少き續に兵將
みてい蠢く如の豚まいが兵米に島のこるざか乾だまい涙血の胞同てしそ　うら

圖像想隊虎白ンパイサ！絶壯

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



畫郎三本宮

あでとこたついてれ仆みのを涙の鐵熱にかいは々人に下の撃爆砲きな斷間いあ　るあでのたて樹ち打て以を身をひ誓の死決億一に
つ勝ち打に虜醜ず必ず必　ふ誓に明神にいこ億一　いならなはてめしらはをに駄無てじ斷を死な高崇のこはれわれわ　るみてい蠹く如

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

こんな
この仲は許つ
ぞ

□この前り、この前り。さあ、今特力をあげて右派を倒すのだ——労働党歌

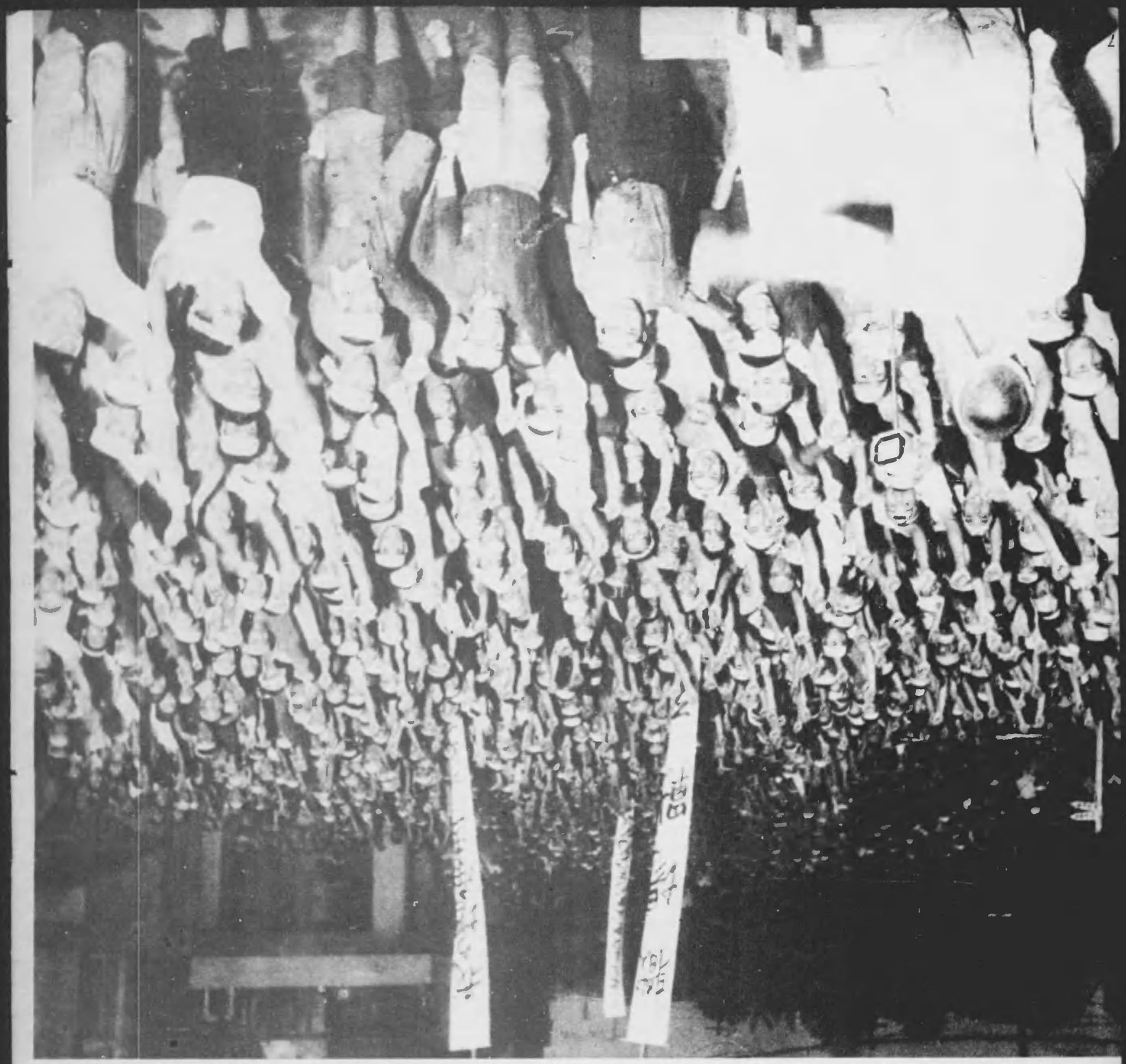




笑くもよし、憎もよし、歌くもよし、踊くもよし、この英雄に贈くもこと考へよう
島の英雄に贈くもこと考へよう
のよきわい娘女やいとけない幼兒
の血潮が流れてゐる上を踏んで進
われらの道はたゞ一つ、職場に闘
双には双を、物には物を以て報

地下戦君臣——農業と防衛の両立を図ってる細菌の警戒。今年は農業と共に防衛に力を注ぐ
へ。この一項に戦力の血を、犠牲のまじり物産、保安戦士の敢闘と、次おれ。防共保衛のため全力を尽すであろう

地の涙つた物産を甲もつけよら
職場を戦場とし、私も米も造るのだ。仕れても逆るのだ
飛行機を、兵器を！





⇧『一緒に、死んでもよろこび』



⇧『敵や味方の弁別はいまに迫ってきて、こいにちて、敵兵に直接なぐり殺されるか、栄養失調の餓死かどちらかしよう』



⇧『自殺者も』工員も銃身保護くちない。あさけに伸びしんと硬直する同胞の仕ぐさに驚愕の表情の久和発生。



⇧『民族の誇りは、どこにいったのか』と叫ぶ朝鮮人の青年。彼らは山の奥深く強制連行されてきた。やせた土地で粗末な食事と重労働に耐えている。

▲小さい朝鮮人の家族にとって、なぜ戦争と結びつき、なぜ日本人の敵意を受けなければならないのか。

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

写真週報 第十二号 昭和十七年三月二十五日発行（毎週水曜日発行）
定価一部十銭 送料 東京 京橋区銀座西八丁目 東京 中央 印刷者 村田 昭 印刷所 東京 中央 印刷所 東京 中央 発行所 写真週報社 東京 中央 電話 京橋（56）2111番 2112番 2113番 2114番 2115番 2116番 2117番 2118番 2119番 2120番 2121番 2122番 2123番 2124番 2125番 2126番 2127番 2128番 2129番 2130番 2131番 2132番 2133番 2134番 2135番 2136番 2137番 2138番 2139番 2140番 2141番 2142番 2143番 2144番 2145番 2146番 2147番 2148番 2149番 2150番 2151番 2152番 2153番 2154番 2155番 2156番 2157番 2158番 2159番 2160番 2161番 2162番 2163番 2164番 2165番 2166番 2167番 2168番 2169番 2170番 2171番 2172番 2173番 2174番 2175番 2176番 2177番 2178番 2179番 2180番 2181番 2182番 2183番 2184番 2185番 2186番 2187番 2188番 2189番 2190番 2191番 2192番 2193番 2194番 2195番 2196番 2197番 2198番 2199番 2200番 2201番 2202番 2203番 2204番 2205番 2206番 2207番 2208番 2209番 2210番 2211番 2212番 2213番 2214番 2215番 2216番 2217番 2218番 2219番 2220番 2221番 2222番 2223番 2224番 2225番 2226番 2227番 2228番 2229番 2230番 2231番 2232番 2233番 2234番 2235番 2236番 2237番 2238番 2239番 2240番 2241番 2242番 2243番 2244番 2245番 2246番 2247番 2248番 2249番 2250番 2251番 2252番 2253番 2254番 2255番 2256番 2257番 2258番 2259番 2260番 2261番 2262番 2263番 2264番 2265番 2266番 2267番 2268番 2269番 2270番 2271番 2272番 2273番 2274番 2275番 2276番 2277番 2278番 2279番 2280番 2281番 2282番 2283番 2284番 2285番 2286番 2287番 2288番 2289番 2290番 2291番 2292番 2293番 2294番 2295番 2296番 2297番 2298番 2299番 2300番 2301番 2302番 2303番 2304番 2305番 2306番 2307番 2308番 2309番 2310番 2311番 2312番 2313番 2314番 2315番 2316番 2317番 2318番 2319番 2320番 2321番 2322番 2323番 2324番 2325番 2326番 2327番 2328番 2329番 2330番 2331番 2332番 2333番 2334番 2335番 2336番 2337番 2338番 2339番 2340番 2341番 2342番 2343番 2344番 2345番 2346番 2347番 2348番 2349番 2350番 2351番 2352番 2353番 2354番 2355番 2356番 2357番 2358番 2359番 2360番 2361番 2362番 2363番 2364番 2365番 2366番 2367番 2368番 2369番 2370番 2371番 2372番 2373番 2374番 2375番 2376番 2377番 2378番 2379番 2380番 2381番 2382番 2383番 2384番 2385番 2386番 2387番 2388番 2389番 2390番 2391番 2392番 2393番 2394番 2395番 2396番 2397番 2398番 2399番 2400番 2401番 2402番 2403番 2404番 2405番 2406番 2407番 2408番 2409番 2410番 2411番 2412番 2413番 2414番 2415番 2416番 2417番 2418番 2419番 2420番 2421番 2422番 2423番 2424番 2425番 2426番 2427番 2428番 2429番 2430番 2431番 2432番 2433番 2434番 2435番 2436番 2437番 2438番 2439番 2440番 2441番 2442番 2443番 2444番 2445番 2446番 2447番 2448番 2449番 2450番 2451番 2452番 2453番 2454番 2455番 2456番 2457番 2458番 2459番 2460番 2461番 2462番 2463番 2464番 2465番 2466番 2467番 2468番 2469番 2470番 2471番 2472番 2473番 2474番 2475番 2476番 2477番 2478番 2479番 2480番 2481番 2482番 2483番 2484番 2485番 2486番 2487番 2488番 2489番 2490番 2491番 2492番 2493番 2494番 2495番 2496番 2497番 2498番 2499番 2500番 2501番 2502番 2503番 2504番 2505番 2506番 2507番 2508番 2509番 2510番 2511番 2512番 2513番 2514番 2515番 2516番 2517番 2518番 2519番 2520番 2521番 2522番 2523番 2524番 2525番 2526番 2527番 2528番 2529番 2530番 2531番 2532番 2533番 2534番 2535番 2536番 2537番 2538番 2539番 2540番 2541番 2542番 2543番 2544番 2545番 2546番 2547番 2548番 2549番 2550番 2551番 2552番 2553番 2554番 2555番 2556番 2557番 2558番 2559番 2560番 2561番 2562番 2563番 2564番 2565番 2566番 2567番 2568番 2569番 2570番 2571番 2572番 2573番 2574番 2575番 2576番 2577番 2578番 2579番 2580番 2581番 2582番 2583番 2584番 2585番 2586番 2587番 2588番 2589番 2590番 2591番 2592番 2593番 2594番 2595番 2596番 2597番 2598番 2599番 2600番 2601番 2602番 2603番 2604番 2605番 2606番 2607番 2608番 2609番 2610番 2611番 2612番 2613番 2614番 2615番 2616番 2617番 2618番 2619番 2620番 2621番 2622番 2623番 2624番 2625番 2626番 2627番 2628番 2629番 2630番 2631番 2632番 2633番 2634番 2635番 2636番 2637番 2638番 2639番 2640番 2641番 2642番 2643番 2644番 2645番 2646番 2647番 2648番 2649番 2650番 2651番 2652番 2653番 2654番 2655番 2656番 2657番 2658番 2659番 2660番 2661番 2662番 2663番 2664番 2665番 2666番 2667番 2668番 2669番 2670番 2671番 2672番 2673番 2674番 2675番 2676番 2677番 2678番 2679番 2680番 2681番 2682番 2683番 2684番 2685番 2686番 2687番 2688番 2689番 2690番 2691番 2692番 2693番 2694番 2695番 2696番 2697番 2698番 2699番 2700番 2701番 2702番 2703番 2704番 2705番 2706番 2707番 2708番 2709番 2710番 2711番 2712番 2713番 2714番 2715番 2716番 2717番 2718番 2719番 2720番 2721番 2722番 2723番 2724番 2725番 2726番 2727番 2728番 2729番 2730番 2731番 2732番 2733番 2734番 2735番 2736番 2737番 2738番 2739番 2740番 2741番 2742番 2743番 2744番 2745番 2746番 2747番 2748番 2749番 2750番 2751番 2752番 2753番 2754番 2755番 2756番 2757番 2758番 2759番 2760番 2761番 2762番 2763番 2764番 2765番 2766番 2767番 2768番 2769番 2770番 2771番 2772番 2773番 2774番 2775番 2776番 2777番 2778番 2779番 2780番 2781番 2782番 2783番 2784番 2785番 2786番 2787番 2788番 2789番 2790番 2791番 2792番 2793番 2794番 2795番 2796番 2797番 2798番 2799番 2800番 2801番 2802番 2803番 2804番 2805番 2806番 2807番 2808番 2809番 2810番 2811番 2812番 2813番 2814番 2815番 2816番 2817番 2818番 2819番 2820番 2821番 2822番 2823番 2824番 2825番 2826番 2827番 2828番 2829番 2830番 2831番 2832番 2833番 2834番 2835番 2836番 2837番 2838番 2839番 2840番 2841番 2842番 2843番 2844番 2845番 2846番 2847番 2848番 2849番 2850番 2851番 2852番 2853番 2854番 2855番 2856番 2857番 2858番 2859番 2860番 2861番 2862番 2863番 2864番 2865番 2866番 2867番 2868番 2869番 2870番 2871番 2872番 2873番 2874番 2875番 2876番 2877番 2878番 2879番 2880番 2881番 2882番 2883番 2884番 2885番 2886番 2887番 2888番 2889番 2890番 2891番 2892番 2893番 2894番 2895番 2896番 2897番 2898番 2899番 2900番 2901番 2902番 2903番 2904番 2905番 2906番 2907番 2908番 2909番 2910番 2911番 2912番 2913番 2914番 2915番 2916番 2917番 2918番 2919番 2920番 2921番 2922番 2923番 2924番 2925番 2926番 2927番 2928番 2929番 2930番 2931番 2932番 2933番 2934番 2935番 2936番 2937番 2938番 2939番 2940番 2941番 2942番 2943番 2944番 2945番 2946番 2947番 2948番 2949番 2950番 2951番 2952番 2953番 2954番 2955番 2956番 2957番 2958番 2959番 2960番 2961番 2962番 2963番 2964番 2965番 2966番 2967番 2968番 2969番 2970番 2971番 2972番 2973番 2974番 2975番 2976番 2977番 2978番 2979番 2980番 2981番 2982番 2983番 2984番 2985番 2986番 2987番 2988番 2989番 2990番 2991番 2992番 2993番 2994番 2995番 2996番 2997番 2998番 2999番 3000番

本誌を愛読者諸兄に

国策や銃後問題にも

写真や戦場読物



いよいよ本誌も『写真週報』となつて、今までの『写真週報』と、どういふ変つた点があるかといふ事を、お話しなければなりますまい。

本誌は、昭和十三年一月十一日に、『写真週報』として、創刊されました。

それ以来、今日まで、満四年と二月、百五十二号を、発行して来ました。

この間、皆様の御愛読を得て、本誌の一人一人が、戦線も銃後も、国策も、戦場読物も、すべてを、写真で見て頂く、といふ事を、目標として、編輯して来ました。

即ち、本誌は、写真を通じて、国策や、銃後問題や、戦場読物を、皆様に、御紹介する、といふ事を、目的として、発行して来たのであります。

ところが、戦局が、大きく、進展するに従つて、本誌の、内容も、自然に、戦場読物に、重点が、置かれる、といふ様な、傾向が、生じて来ました。

これは、本誌の、編輯者が、意識して、さうしたのではなく、戦局の、進展に、伴つて、自然に、さうなつて来たのであります。

即ち、戦線の、将兵諸君が、本誌を、御覧になる場合、銃後の、写真や、記事よりも、戦場の、写真や、記事を、御覧になる、といふ事が、多くなつて来たのであります。

これは、戦線の、将兵諸君が、銃後の、事よりも、戦場の、事の方に、より多く、関心を、持たれる、といふ事を、物語るものであります。

そこで、本誌は、今後も、この傾向を、更に、強めて、行きたいと、思ひます。

即ち、本誌は、今後も、戦場読物に、重点を、置いて、行きたいと、思ひます。

しかし、戦場読物といつても、戦線の、将兵諸君が、銃後の、事を、忘れて、戦場の、事ばかりを、御覧になる、といふ事は、決して、ありますまいから、本誌は、今後も、銃後問題や、国策や、戦場読物を、満載して、行きたいと、思ひます。

『写真週報』と改題

★いよいよ本誌も『写真週報』となつて、今までの『写真週報』と、どういふ変つた点があるかといふ事を、お話しなければなりますまい。

本誌は、昭和十三年一月十一日に、『写真週報』として、創刊されました。

それ以来、今日まで、満四年と二月、百五十二号を、発行して来ました。

この間、皆様の御愛読を得て、本誌の一人一人が、戦線も銃後も、国策も、戦場読物も、すべてを、写真で見て頂く、といふ事を、目標として、編輯して来ました。

即ち、本誌は、写真を通じて、国策や、銃後問題や、戦場読物を、皆様に、御紹介する、といふ事を、目的として、発行して来たのであります。

ところが、戦局が、大きく、進展するに従つて、本誌の、内容も、自然に、戦場読物に、重点が、置かれる、といふ様な、傾向が、生じて来ました。

これは、本誌の、編輯者が、意識して、さうしたのではなく、戦局の、進展に、伴つて、自然に、さうなつて来たのであります。

即ち、戦線の、将兵諸君が、本誌を、御覧になる場合、銃後の、写真や、記事よりも、戦場の、写真や、記事を、御覧になる、といふ事が、多くなつて来たのであります。

これは、戦線の、将兵諸君が、銃後の、事よりも、戦場の、事の方に、より多く、関心を、持たれる、といふ事を、物語るものであります。

そこで、本誌は、今後も、この傾向を、更に、強めて、行きたいと、思ひます。

即ち、本誌は、今後も、戦場読物に、重点を、置いて、行きたいと、思ひます。

しかし、戦場読物といつても、戦線の、将兵諸君が、銃後の、事を、忘れて、戦場の、事ばかりを、御覧になる、といふ事は、決して、ありますまいから、本誌は、今後も、銃後問題や、国策や、戦場読物を、満載して、行きたいと、思ひます。

『写真週報』と改題

★いよいよ本誌も『写真週報』となつて、今までの『写真週報』と、どういふ変つた点があるかといふ事を、お話しなければなりますまい。

本誌は、昭和十三年一月十一日に、『写真週報』として、創刊されました。

それ以来、今日まで、満四年と二月、百五十二号を、発行して来ました。

この間、皆様の御愛読を得て、本誌の一人一人が、戦線も銃後も、国策も、戦場読物も、すべてを、写真で見て頂く、といふ事を、目標として、編輯して来ました。

即ち、本誌は、写真を通じて、国策や、銃後問題や、戦場読物を、皆様に、御紹介する、といふ事を、目的として、発行して来たのであります。

ところが、戦局が、大きく、進展するに従つて、本誌の、内容も、自然に、戦場読物に、重点が、置かれる、といふ様な、傾向が、生じて来ました。

これは、本誌の、編輯者が、意識して、さうしたのではなく、戦局の、進展に、伴つて、自然に、さうなつて来たのであります。

即ち、戦線の、将兵諸君が、本誌を、御覧になる場合、銃後の、写真や、記事よりも、戦場の、写真や、記事を、御覧になる、といふ事が、多くなつて来たのであります。

これは、戦線の、将兵諸君が、銃後の、事よりも、戦場の、事の方に、より多く、関心を、持たれる、といふ事を、物語るものであります。

そこで、本誌は、今後も、この傾向を、更に、強めて、行きたいと、思ひます。

即ち、本誌は、今後も、戦場読物に、重点を、置いて、行きたいと、思ひます。

しかし、戦場読物といつても、戦線の、将兵諸君が、銃後の、事を、忘れて、戦場の、事ばかりを、御覧になる、といふ事は、決して、ありますまいから、本誌は、今後も、銃後問題や、国策や、戦場読物を、満載して、行きたいと、思ひます。

国策や銃後問題にも

戦場読物

サイパン玩園の歌